厚田地区

ルーラン海岸と義経の涙岩

風景

ダイナミックな夕日にドラマチックな対岸の夜景。詩情豊かな景観が心に染みます。

――厚田といえば真っ先に思い浮かぶのが見事な夕日ですが、特にココが一番という絶好スポットを教えてください。

広報　名前がそのままなんですが、**厚田公園夕日の丘**からの眺めがベストですね。ちなみに、過去のデータを参考にすると、記念すべき合併日（10月1日）の日の入りは17時17分です。

――それ以外のおすすめ風景は？

広報　厚田公園から眺める**厚田市街**と**漁港**でしょうか。あと、石狩から浜益方面へ向かうと、聚富から望来へ下る坂道がありまして、その坂の途中にある「ビューポイント『望み来る 里の四季』」から眺める**望来市街の風景**も、なかなかいいですよ。個人的には、聚富の高台から見下ろす**夜景**が好きです。国道231号を浜益から石狩方面へ向かうとき、下り坂の途中で、札幌・小樽のキラキラと輝く夜景を眺めることができます。

――そういえば、"幻の絶景"になってしまった名所もありますよね。

広報　**義経の涙岩周辺のルーラン海岸**ですね。実は、この海岸線沿いにあった国道トンネルを崩落危険度で検査したところ、かなり危険と判断されまして、新たに別のトンネル（新太島内トンネル）をつくり、平成15年3月から開通しています。つまり、この時点で新ルートができたため、義経の涙岩などが"秘境"になったんです。まさに、ルーランの意味どおり「神様の通る急な坂道」という場所になってしまった感があります。

――とはいえ、厚田には、まだまだ見どころがたくさんありますね。

広報　はい。**厚田公園キャンプ場内の菖蒲園**や、**厚田公園のヤマザクラ、戸田記念墓地公園の桜**など、見ごたえある花スポットが充実しています。これからの季節は紅葉も楽しみで、**農村風景が広がる発足**では、色彩バランスが絶妙の、美しい秋の錦図を堪能できると思います。

文化

ニシンの大漁で栄えたまちの輝き。映画をこよなく愛する面々が、新しい魅力づくりに取り組んでいます。

――厚田のことを知るならまずココへ、という場所を教えてください。

広報　やっぱり、**郷土資料室**でしょう。その昔、ニシンが大漁だった時代の息吹がじかに感じられる船や道具などが見学できます。

――文学のジャンルでは、厚田は有名作家を輩出していますね。

広報　「新撰組始末記」や「父子鷹」などの作品がある**子母沢寛**（明治25～昭和43年）がここで生まれています。ほかにも名著がたくさんありますが、個人的には、故郷を描いた「**蝦夷物語**」「**厚田日記**」「**南へ向いた丘**」をぜひ読んでほしいですね。

――最近では、平成15年にオープンした映像資料センターが話題になっていますが。

えい・あい館

広報　それは、映画を愛するという意味が込められた「**えい・あい館**」のことですね。同じ年の3月に閉校になった発足小学校の校舎を新たに地域交流センターとして再生しましたが、えい・あい館はその中に開設された施設で、東京の岩波映像から寄贈された貴重なドキュメンタリーフィルムやビデオテープが多数保管されているほか、上映会も行われ評判を呼んでいます。現在、NPO法人が運営主体となって活用されていますが、地域の活性化につながる取り組みとして大いに期待しています。

特産品

海の幸、山の幸――。あい風がはぐくんだ素材料理はほかでは味わえない絶品ばかり。

――厚田では、野山の景色を色づかせ、海を藍色に染める北西の風を「あい風」と呼ぶそうですが、その名を付けた特産品がありましたね。

広報　地酒「**あい風**」ですね。厚田米を使った純米吟醸酒です。お酒はちょっと…という方には、おいしい「**しそジュース**」がありません。8月に入ると、厚田地区JA女性部の皆さんでこしらえるのですが、青シソ、赤シソの2種類があって、どちらも好評なんですよ。ジュースといえば、ほかにも「**トマトジュース**」が人気ですね。実は、トマトジュースが少々苦手な私でも、これなら気にせずごくごく飲めるんです。甘味があって、クセが少ないからだと思います。

――厚田地区には、名物美味がまだまだいっぱいありそうですね。

広報　**手作り豆腐**や**ハタハタ飯寿し**、煮込んだカボチャをぬかの代わりにして大根を漬け込んだ変わり漬物「**タクランケ漬け**」など、いろいろありますよ。それに、広報7月号でも紹介済みなんですが、やはり**港朝市**について、もう一度、触れておきたいですね。

――名物朝市は石狩や浜益にもありますが、厚田はその先駆け的存在だとか。

広報　朝市が始まったのは平成8年からで、毎年20軒ほどの店が出て大いににぎわうんですよ。ところで、厚田といえば**シャコ**が名産ですが、店先に並ぶのがだいたい5、6月。ほかにもタコやカレイなども人気ですし、朝市では、そのときどきの旬の魚が手に入るほか、地元ならではの手作り逸品も販売していますので、グルメの皆さんは要チェックです。

伝え隊！ 私のまちのヒストリー

望来獅子舞保存会

毎年9月の第2土曜・日曜に行われる望来神社祭では、豊作などを祈願して「望来獅子舞」が奉納されます。奉納後は家運隆盛を願い約200軒にも及ぶ家を一軒一軒訪問。太鼓・笛に続き、子どもたちがくさり鎌やなぎなたを持って舞う獅子取り、そして5人が入って息ぴったりに演舞する獅子と続く行列を、皆さんが今か今かと待っていてくれるのがうれしいですね。そもそも望来獅子舞は、富山県から移住した本吉五市郎さんが昭和5年に伝えた郷土芸能。それを毎年欠かさず大切に引き継いできた先代らの思いを守っていこうと、昭和45年に保存会を結成したのです。以来、この伝統を次の世代にしっかり伝えていくことも大切と考え、地元の望来中学校でも授業の一環として獅子舞を教えています。一人一人の心にふるさとの大事な文化としてはぐくまれていくよう、堅実に伝えていきたいですね。

（事務局長　高田恭宏さん）